

(原文) クラインマン, アーサー『病いの語り』江口重幸ほか訳, Pp.4-5, 東京:誠心書房, 1996年

「病いの問題(illness problem)とは、症状や能力低下がわれわれの生活のなかに作り出す根本的な困難のことである。たとえば、階段を上がって寝室に歩いてゆくことができないかもしれない。あるいは座って仕事をしているあいだ、腰痛のために注意が散漫になるという経験をするかもしれない。頭痛のために宿題や家事に集中することができず、誤りやイライラにむずびつくこともあるかもしれない。あるいは性的不能におちいって離婚になってしまうかもしれない。他の誰にも自分の痛みは見えないし、したがって、能力低下が現実のものだと客観的にはっきりと認めてもらうこともできないために、強い怒りの感情をもつこともあるかもしれない。結果として、われわれは、自分の訴えが信用してもらえないことに気づき、自分が絶えざる痛みのなかにあることを証明しなければならぬ苛立たい重圧(プレッシャー)を経験することになる。われわれは、意気消沈し、よくなろうとする希望を失うようになるかもしれない。あるいは、死んだり寝たきりになったりする事の恐怖によって抑うつになるかもしれない。失った健康、変形した身体イメージ、危ういまでに低下している自尊心を嘆き悲しむ。あるいは、外観がそこなわれたという理由で恥ずかしいという気持ちをいただくかもしれない。こうしたものすべてが病いの問題なのである」。

A. センテンスで分析する

1. 病いの問題(illness problem)とは、症状や能力低下がわれわれの生活のなかに作り出す根本的な困難のことである。	
2. たとえば、階段を上がって寝室に歩いてゆくことができないかもしれない。	
3. あるいは座って仕事をしているあいだ、腰痛のために注意が散漫になるという経験をするかもしれない。	
4. 頭痛のために宿題や家事に集中することができず、誤りやイライラにむずびつくこともあるかもしれない。	

5. あるいは性的不能におちいって離婚になってしまうかもしれない。他の誰にも自分の痛みは見えないし、したがって、能力低下が現実のものだと客観的にはっきりと認めてもらうこともできないために、強い怒りの感情をもつこともあるかもしれない。	
6. 結果として、われわれは、自分の訴えが信用してもらえないことに気づき、自分が絶えざる痛みのなかにあることを証明しなければならぬ苛立たい重圧(プレッシャー)を経験することになる。	
7. われわれは、意気消沈し、よくなろうとする希望を失うようになるかもしれない。	
8. あるいは、死んだり寝たきりになったりする事の恐怖によって抑うつになるかもしれない。	
9. 失った健康、変形した身体イメージ、危ういまでに低下している自尊心を嘆き悲しむ。	
10. あるいは、外観がそこなわれたという理由で恥ずかしいという気持ちをいただくかもしれない。	
11. こうしたものすべてが病いの問題なのである。	

B. テキスト分割単位で分析する。ただし／の入れ方は、恣意的である。

「病いの問題(illness problem)とは、<sup>I</sup>/症状や能力低下が<sup>II</sup>/われわれの生活のなかに作り出す<sup>III</sup>/根本的な困難のことである。<sup>IV</sup>/たとえば、<sup>V</sup>/階段を上がって<sup>VI</sup>/寝室に歩いてゆくことが<sup>VII</sup>/できないかもしれない。<sup>VIII</sup>/あるいは/座って仕事をしているあいだ、<sup>IX</sup>/腰痛のために注意が散

漫になる<sup>X</sup>／という経験をする<sup>XI</sup>／かもしれない。<sup>XII</sup>／頭痛のために<sup>XIII</sup>／宿題や家事に集中することが<sup>XIV</sup>／できず、<sup>XV</sup>／誤りやイライラに<sup>XVI</sup>／むすびつくことも<sup>XVII</sup>／あるかもしれない。<sup>XVIII</sup>／あるいは<sup>XIX</sup>／性的不能におちいって<sup>XX</sup>／離婚になってしまう<sup>XXI</sup>／かもしれない。<sup>XXII</sup>／他の誰にも<sup>XXIII</sup>／自分の痛みは見えないし、<sup>XXIV</sup>／したがって、<sup>XXV</sup>／能力低下が現実のものと<sup>XXVI</sup>／客観的にはっきりと<sup>XXVII</sup>／認めてもらうことも<sup>XXVIII</sup>／できないために、<sup>XXIX</sup>／強い怒りの感情を<sup>XXX</sup>／もつことも<sup>XXXI</sup>／あるかもしれない。<sup>XXXII</sup>／結果として、<sup>XXXIII</sup>／われわれは、<sup>XXXIV</sup>／自分の訴えが<sup>XXXV</sup>／信用してもらえないことに<sup>XXXVI</sup>／気づき、<sup>XXXVII</sup>／自分が<sup>XXXVIII</sup>／絶えざる痛みのなかにある<sup>XXXIX</sup>／ことを証明しなければならぬ<sup>XL</sup>／苛立たしい重圧（プレッシャー）を<sup>XLI</sup>／経験することになる。<sup>XLII</sup>／われわれは<sup>XLIII</sup>／、意気消沈し、<sup>XLIV</sup>／よくなろうとする<sup>XLV</sup>／希望を失うようになる<sup>XLVI</sup>／かもしれない。<sup>XLVII</sup>／あるいは、<sup>XLVIII</sup>／死んだり<sup>XLIX</sup>／寝たきりになったり<sup>L</sup>／することの<sup>LI</sup>／恐怖によって<sup>LII</sup>／抑うつ的になる<sup>LIII</sup>／かもしれない。<sup>LIV</sup>／失った健康、<sup>LV</sup>／変形した身体イメージ、<sup>LVI</sup>／危ういまでに<sup>LVII</sup>／低下している<sup>LVIII</sup>／自尊心を嘆き悲しむ。<sup>LIX</sup>／あるいは、<sup>LX</sup>／外観がそこなわれた<sup>LXI</sup>／という理由で<sup>LXII</sup>／恥ずかしいという<sup>LXIII</sup>／気持ちをいだけ<sup>LXIV</sup>／かもしれない。<sup>LXV</sup>／こうしたものすべてが<sup>LXVI</sup>／病いの問題<sup>LXVII</sup>／なのである<sup>LXVIII</sup>」。

- 
- I \_\_\_\_\_
  - II \_\_\_\_\_
  - III \_\_\_\_\_
  - IV \_\_\_\_\_
  - V \_\_\_\_\_
  - VI \_\_\_\_\_
  - VII \_\_\_\_\_
  - VIII \_\_\_\_\_
  - IX \_\_\_\_\_
  - X \_\_\_\_\_
  - XI \_\_\_\_\_
  - XII \_\_\_\_\_
  - XIII \_\_\_\_\_
  - XIV \_\_\_\_\_

- 
- XV \_\_\_\_\_
  - XVI \_\_\_\_\_
  - XVII \_\_\_\_\_
  - XVIII \_\_\_\_\_
  - XIX \_\_\_\_\_
  - XX \_\_\_\_\_
  - XXI \_\_\_\_\_
  - XXII \_\_\_\_\_
  - XXIII \_\_\_\_\_
  - XXIV \_\_\_\_\_
  - XXV \_\_\_\_\_
  - XXVI \_\_\_\_\_
  - XXVII \_\_\_\_\_
  - XXVIII \_\_\_\_\_
  - XXIX \_\_\_\_\_
  - XXX \_\_\_\_\_
  - XXXI \_\_\_\_\_
  - XXXII \_\_\_\_\_
  - XXXIII \_\_\_\_\_
  - XXXIV \_\_\_\_\_
  - XXXV \_\_\_\_\_
  - XXXVI \_\_\_\_\_
  - XXXVII \_\_\_\_\_
  - XXXVIII \_\_\_\_\_

---

XXXIX

XL

XLI

XLII

XLIII

XLIV

XLV

XLVI

XLVII

XLVIII

XLIX

L

LI

LII

LIII

LIV

LV

LVI

LVII

LVIII

LIX

LX

LXI

LXII

---

---

LXIII

LXIV

LXV

LXVI

LXVII

LXVIII

役に立つリンク

■ パラグラフ分析の実例

・ 火星の人類学者（池田）

[http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/user/rosaldo/16misamaON\\_Mars.html](http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/user/rosaldo/16misamaON_Mars.html)

上記の短縮リンク

<https://goo.gl/JuU2W6>

文献

・ クラインマン、アーサー『病いの語り』江口重幸ほか訳、東京：誠心書房、1996年